

乗務員を馬鹿にするな！

やっぱり空調は故障していた！

8月23日、異常な室温になった詰所の問題について、「空調が故障している」と回答した東京の詰所の問題について私たちは申し入れをしました。

9月2日に組合と関西支社幹事との審理がありましたが、会社は「付議事項にあたらぬ」として業務委員会の開催を拒否しました。まったく不誠実な対応に怒りを感じます。

社員が現場で暑い思いで業務をこなしている苦労を会社はどんな思いでいるのでしょうか。今年は特に異常な気温が続き、列車の気温もさることながら詰所の温度も異常な暑さが続いていました。そうした気温の詰所の中で暑さをしのぐために、空調が何度も故障した原因で、社員は上着を脱いでうちわで扇ぐしか方法がありませんでした。

東京の詰所の問題だから無責任になって大阪にある関西支社は関知しないのか、「幹鉄事（新幹線鉄道事業本部）は承知している。」「8月30日に部品を交換して修理したが、8月31日に別の箇所が故障した。」「現在、全体にわたって業者に調査させている」という回答をしました。

この回答からして、空調の機械は以前から調子が悪く、頻繁に故障が起きていた事がハッキリしました。

今回の空調の問題だけとっても、会社は社員を人間扱いしていないように感じます。体調を崩してもまた代わりの社員がいるとでも言いたいのでしょうか。

私たちが問題にする以前から、空調の問題を自ら管理者に申告してくれた真面目な社員もたくさんいます。その時の回答も「体感温度で管理している」「節電」等の答えしか返ってきませんでした。

何が体感温度だ！故障が続くことが分かっているなら早急に手配し、社員に迷惑かけることがないように職場環境を整えることが「一部上場企業」の会社がすることではないでしょうか。

最近、異常な暑さも遠のきましたが残暑が続いています。今後は、故障していても分からない状況が続くことが予想されます。会社はこれまで社員に迷惑をかけたことを真摯に謝罪するお知らせぐらい掲示してもいいのではないのでしょうか